



TITLE:

京都外科集談会抄録

AUTHOR(S):

CITATION:

京都外科集談会抄録. 日本外科宝函 1953, 22(1): 49-57

ISSUE DATE:

1953-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/205965>

RIGHT:

京都外科集談会抄録

昭和 26 年 2 月 例会 (2 月 24 日)

(1) 有茎皮瓣に依る足蹠部植皮成

功例 松 永 守 雄

A Successful Case of Pedunculated Skin Transplantation to the Sole of Foot. M. MATSUNAGA

外傷によつて右足蹠部内側直下に哆開創を生じ、跟骨の開放骨折をみたが、日と共に軟部に壊死を来したので切離により大きな物質欠損創となつたので、28 病日に左下腿後面で中枢側より血液供給をうける有茎性皮膚瓣を作つて創面に固定した。一時皮膚は乾燥して暗赤色となつたが中央部が移植床に接着した後、1 週間後其の根部の中を 3 分の 2 に縮め、更に 1 週間後全部切離して欠損創を完全に被覆した。接着した皮膚は少々浮腫状であるが脱毛もなく退院する事を得た。手術直前分泌液を尙認め、雑菌をも証明し、実に術中皮膚の固定が不十分であつたにも拘らず成功した事は有茎皮膚瓣の移植が広い物質欠損創の処置として有用な事を示すものである。

(2) 死腔充填物としてのスポンゼル

に就て 河村健二郎

Gelatin Sponge (Spongel) as the Plug of Dead Cavity.

K. KAWAMURA

(3) 最近経験した腸閉塞の 6 例

守 安 久

Considerations on Recently Experienced 9 Cases of Ileus.

H. MORIYASU

腸閉塞の 9 例について所見を述べる、

1. ヘルニヤ嵌頓部小腸が再び盲腸に癒着した例。再癒着を予想して廻腸結腸吻合術施行。
2. 魚骨を中核とする糞石によるもの。摘出。
3. 幼児の廻腹部重積症。腸管の腹腔脱出を避ける為腰麻にて施行。エーテル全麻少量を加う。
4. 5. 例は中老年の股ヘルニヤ嵌頓。
6. 老人で緩慢に來た腸閉塞、結腸癌の為。
7. 腸結核による癒着性狭窄。大腸燈照射後小腸結

腸吻合を行つた。

8. 虫垂炎にによる汎発性腹膜炎後の癒着性索状物による絞扼。小腸切除、腸瘻造設。全身状態が悪く腹腔が大腸菌で汚染された患者は始めから腸瘻造設のみすべきだつたと思う。死亡す。

9. 癒着のため。腰麻にてショックを来し小腸瘻を造設したが死亡す。

(4) 四丘体動腫瘍と眼球運動障害

水 取 二 郎

Disturbances of Eye Movements in the Tumor of Quadrigeminal Plate.

J. MONDORI

(5) 神経麻痺を伴える陳旧性脊椎

骨折に対する推弓切除の効果

八 牧 力 雄

Effects of Laminectomy on the Inveterate Vertebral Fracture Associated with Nervous Paralysis.

R. YAMAKI

神経麻痺を伴える陳旧性脊椎骨折の 3 例に即ち第 1 例は 2 年後、第 2 例は 2 ヶ月後、第 3 例は 4 ヶ月後に夫々推弓切除術を施行した。

考 察

1) 第 1, 第 2 例は外傷性脊髓膜症に属するものと思われ、共にヨード油の部分的塊状停溜を認めたから、脊髓腔の狭窄が考えられる。推弓切除は除圧的效果を来す事は確実であるが之のみでは長期間の神経麻痺の速かな恢復を説明するには充分ではない。

2) 第 1 例に於て神経障害は膀胱、直腸、運動、知覚、陰萎の順に恢復した。

3) 第 1, 第 2 例に於ける腰部運動痛並左ラセグ氏症候が残存していたが之は癒着による脊髓根の牽引痛と解される。この除去には推間孔の拡大と根の再癒着防止が必要であらう。

4) 第 3 例は挫傷により脊髓の変性を来したもので推弓切除後も神経麻痺は恢復しなかつた。

- (6) SM. PAS. TBI. の結核菌発育阻止力及び其の的互關係に就て (第二報) 森 山 元

Inhibitory Potential against the Growth of Tuberculous Bacilli of Streptomycin, Paraaminosalicylic Acid Natrium and Tibion and the Correlation among these three Drugs. (the 2nd Report) G. MORIYAMA

- (7) 結核性膿胸濃汁の化学的性状に就て 松 永 守 雄
Chemical Nature of the Pus in Tuberculous Pyothorax.

M. MATSUNAGA

結核性膿胸の膿汁は、寒性膿に関する文献に一致して膿清と全膿との比重の差が小さい。

又糖値は零であるが、還元性物質の存在は確実である。トリプトファンやヒスチミンの如き還元化合物は変化をうけ易い。アセトン、クレアチニンの定性試験が結核菌の減少と共に陰性化するが、その本態は分解産物であろうという推定に止まつた。アルデヒド試薬(エールリッヒの)で緑色になる時は混合感染によるニトリットを考えてよからう。只結核性膿汁の特有な反応は定め得なかつた。

膿清の濁濁、沈渣の量及び比重はよく平行するが、洗滌によつて翌日は著明に減少する。急性炎症が加わると比重のみが増加し、平行が乱れる。洗滌以外の操作は変化を起す原因とならず、クレアチニン定性反応を始め二三の反応は洗滌にも影響されない。

- (8) 外科的結核症に対するコンテ
ーベン療法中に於ける血中プロ
トロンビンの消長

増 田 強 三・島田三千秋・西村周郎
野村源蔵・大谷 明

On the Influence of TBI upon the Concentration of Prothrombin in the Blood.

G. MASUDA M. SHIMADA
S. NISIMURA G. NOMURA
A OTANI

- (9) 骨関節結核に於ける骨髓造影の意義 野 島 元 雄

Significance of the Osteomyelography in Bone and Joint Tuberculosis.
M. NOJIMA

- (10) 骨関節結核の手術的侵襲に依る血液学的変化に就て (第二報) 大 塚 哲 也

Haematologic Changes Following Operation of Bone and Joint Tuberculosis (the Second Report)

T. OTUKA

22例のストマイ併用病巣膿清術を施行した例に就いて血液学的影響を調べた結果を得た。

- 1) 術前全患者に貧血を証明し赤沈値の促進の傾向を認めたが、特に膿瘍、瘻孔を有する者程その傾向が強い。
- 2) 白血球に著変を示さぬ。
- 3) 好中球、後骨髄球、桿状球は術前増加を示す。
- 4) 杉山氏平均核数は左方移動を示す。
- 5) 淋巴球は好中球増加のため比較的減少を示す。
- 6) N/Ly は従つて術前に於て大である。
- 7) 以上の病的状態は手術の影響に依り更に一過性に悪化するが略3週後回復する。
- 8) 単球、大、中淋巴球は著変を示さない。
- 9) 好酸球は術後増加の一途を辿り、手術に影響される事が少ないと考えらる。
- 10) 膿瘍瘻孔による自浄作用は個体に大なる犠牲を強いている。
- 11) ストマイ併用病巣膿清術は決して危険なものではなくむしろ良好なる結果が得られる。

昭和 26 年 3 月 例会 (3月17日)

- (1) 骨関節結核に於ける各種皮膚反応 野 島 元 雄

Some Cutaneous Reactiones in Bone and Joint Tuberculosis.

M. NOJIMA

- (2) 尿崩症に対する脳下垂体後葉移植
板谷 博之
Transplantation of Hypophysis in Diabetes Mellitus. H. ITAYA

- (3) 頭部外傷後の一過性疼痛過敏症
千原 卓也
The Hyperalgesia after Head Injury. T. CHIHARA

- (4) 骨関節結核の骨髓像
大塚 哲也
Concerning the Myelocyte in Bone and Joint Tuberculosis.
T. OTSUKA

10例の四肢に於ける骨関節結核患者に左右対照的に且つ同時に骨髓穿刺を施行し次の結果を得た。

1) 赤血球数、血色素量共に貧血を証明し、而も患側程その程度が著明である。且つX線像で骨萎縮の高度のもの程貧血の度が強い。

2) 病巣部清術後貧血は健、患側共に恢復するが、患側に於ける方がその度が著明である。

3) 有核細胞数は一般に数が少々少く、これ又患側の方が健側よりその数が少い。

4) 百分率は赤芽球系、骨髄芽球は健側に多く、好酸球系、単球は患側に多い、併し好中球系、淋巴球は略々同率である。

- (5) 骨関節結核症に於ける肺臓機能に就て、特に手術に依る影響
手島 宰三
The Liber Function in Bone and Joint Tuberculosis, Especially Following Operation. S. TEZIMA

- (6) 胃癌手術後両側性に Phlegmasia alba dolens を来せる一例
滝 幸久
A case of Phlegmasia alba dolens after Operation of Gastric Cancer.
Y. TAKI

- (7) 胃切除後に頻発せるイレウスに就て
王 維 藩
The Ileus after Resection of Stomach. I. OO

- (8) 骨関節結核症に対する保存療法と PC, SM, 出現前後の手術療法との相対的観察
島田三千秋・森山元一・矢形延寿
大石 宏
The Statistical Study on Conservative and Operative Treatments of Bone and Joint Tuberculosis in Pre and Post Penicillin, Streptomycin Era.

M. SHIMADA G. MORIYAMA
N. YAKATA. H. OISHI

京大整形外科を訪れた骨関節結核の患者に就いて保存療法を施せるものの中、退院後5~10年の予後調査可能なりしもの161例。[Pc, SM] 前手術療法を施せるものの中、昭和14年~昭和23年迄の10年間に於ける67例。[SM] 入手可能となりし昭和24年より現在に至る [Pc, SM] 後手術療法を施せる55例に就いて治癒率、膿瘍及び瘻孔の治癒状態、手術療法に依る創部の転痛等に就いて退院時、及予後に於ける統計学的に相互の關係を觀察して総合的に次の様な結果を得た。即ち保存療法より [Pc, SM] 前手術療法がやゝ勝り、[Pc, SM] 後手術療法は各種の点に於て前2者より遙かに勝れている。然し [Pc, SM] 後手術療法は実施後尚ほ日浅く、今後5~10年の觀察期間を経てその真価が批判せられるものと考える。

- (9) 最近経験せる膽道疾患の7例
八牧力雄・守安 久
Seven Cases of Biliary-Ducts Disease Experienced recently.

R. YAMAKI H. MORIYASU

(1) 最近経験した7例の胆道疾患は何れも中年又はそれ以上の年齢にみられた。

(2) 7例中3例は蛔虫の迷入を見、其の中2例は胆石を伴っていた。これは蛔虫迷入により胆道炎乃至胆汁鬱滞を来し、結石形成が促されたものか、胆石の爲胆道に Dyskinesie が起り蛔虫が迷入し易い状態が

起つたか、或いは蛔虫卵を核として胆石形成が成されたものと考えられる。

(3) 吾々の症例より胆石症の診断には矢張り十二指腸液所見が最も拠り所となる。7例中2例は Acute

Abdomen として緊急手術を行つたもので十二指腸液検査を行い得なかつた。其の爲術前に胆道疾患と診断する事が出来なかつた。

昭和 26 年 4 月 例 會 (4月28日)

(1) 外反手の一例 門 田 栄 一 Manu Valgus. Report of a Case. E. KADOTA

12才10ヶ月の女子で両手の尺骨側外転位並びに両腕関節の運動障碍あり。視診上両腕関節は前腕の長軸に対して約30°の尺骨側外転位をとり腕関節の掌側屈曲は軽度制限、尺骨側屈曲は過度可能、橈骨側屈曲は制限されている。

レ線像で橈骨遠位端は尺骨に対向して変形し、橈骨々幹部は中央でS字状に曲り、尺骨の遠位骨端は脱臼し尺掌側に移動せり。腕骨の中枢部は月状骨を中心として略々直角に屈曲し前腕骨の遠位端に楔状に入り込んでいる。

治療は橈骨下端骨端部の楔状骨切除術を行い腕関節変形を矯正した後ギプス固定、マッサージにより、外観上及び機能上殆んど正常となつた。本症例は明白な成長の遅延や一時的性徴の発現異常なくして両側に発生しレ線像その他の所見よりして骨の系統的疾患なる者は明白である。尙尺骨遠位端が掌側に脱臼した原因については不明である。

(2) 顔面痙攣性チックの一治験例 亘 亘 Tic convulsivus Cured by Operation. Report of a Case.

W. TATSUMI

男子、農業の患者に顔面神経副神経吻合術を左側頸部に於て顔面神経切断末梢端と副神経切断中枢端の端々吻合により行つた。本疾患の発生要約は諸説があり決定的でないが本疾患の治療法には内科的種々薬物療法から顔面神経人工的麻痺により患者の苦痛を除かんとし (Oppenheim), 顔面神経末梢部或は茎乳孔内アルコール注射療法 (Schlösser), 神経伸展術 (Baum), 顔面神経枝部分的切断術 (German), 咬筋々内筋移植術 (Viercher) 等が行われたが効果が永続的でなく再発を来していた所、Kennedy が顔面神経副神経吻合術により永続的效果を認め、或は顔面神経舌下神経吻

合術が行われている。本症例では術後チックは消失し、半ヶ年後には肩の力は術前に復し、労作時の肩部の疼痛も消失し、手術後の一時的顔面神経麻痺も回復し顔貌は対称的となり鼻唇溝も略正常となつた。顔面の主動的運動も可能となり更に回復しうるものと考えられる。

(3) Osgood-schlatter 氏病に対する一新治療法に就て

近 藤 茂・大 塚 哲 也

A New Treatment of Osgood Schlatter's Disease.

S. KONDO T. OTSUKA

患側脛骨粗面に於て、最も圧痛を訴える場所を求め、0.05%のペルカミン溶液にて骨膜に達する局所浸潤麻痺を施行後、小尖刃刀で骨膜に至る迄穿刺し、刀の皮膚刺入点を支点として、脛骨長軸に平行に刀先を動かして骨膜を充分縦に乱切す。充分目的を達した時には脂肪を交えた骨髓血の創面より湧出するのを認める。あとは消毒の後、圧迫繃帯を施すのみで患者は徒歩で帰宅出来る。特に縫合を行う事もないから繃帯交換も必要とせず、又1回でその目的を達す。上述の法に従い9例につき(内3例は両側)処置した所、2例を除き3~7日にて疼痛は除かれ再発を証明しなかつた。無効例も悪化した様な事はない。本法による疼痛除去機転に就いては乱切により骨膜に対する圧力が除かれるためではなかろうか、それと同時に此の刺激或は出血により化骨が促進される為でもあろうか。

(4) 甲状腺切除後のテタニー

中 野 進

Tetany after the Rem oval of Goiter.

S. NAKANO

(5) 縦隔贅に発生せるノイリノー

ムの一例 上 野 洋

Neurinoma in the Mediastinum. Report of a Case. H. UENO

(6) 三年間に経験せる骨関節結核 死亡例 (特に結核性脳膜炎に 就て) 笠井 実人

Deaths from Bone and Joint Tuberculosis in These Three Years. S. KASAI

約三年間の国立京都病院における骨関節結核死亡例31例の死因を調査した結果その42%である13例が結核性脳膜炎によるものである事を知った。骨関節結核に於ては病巣周辺の血管が収縮性に乏しく結核菌の血行性播種の危険は常に存在しているわけであるからこれに手術侵襲を加える場合でも或は又非観血的操作を加える場合にも充分注意を払わなければならない事は勿論主病巣以外の所に新たに転位を思わせる病巣の現われるような時には充分注意を要する事を経験した。それと同時に之を防止する為には主病巣部の早期発見早期治療ならびに化学療法剤の適宜な使用が必要である事も経験した。又脊椎カリエスの場合硬膜外膿瘍が直達性に硬膜及蜘蛛膜をおかし結核性脳膜炎を起した症例も経験したので之を報告し考察を加えた。

(7) 胃癌手術後に於ける大動脈栓 塞 長谷川 豊 男

Embolism of Aorta after the Operation of Gastric Cancer. T. HASEGAWA

(8) 巨人なる腎内被細胞肉腫に対 するナイトロゼン・マスター ドの効果に就て 守 安 久

On the Effect of Nitrogen-Mustard to the Huge Endothelial Sarcoma of the Kidney. H. MORIYASU

症例、18才、男。1ヶ月前腹部中央より稍右に人頭大の腫瘤に気附く。右腎腫瘍の診断にて開腹。右腎は左腎の3倍大に腫脹し下極より腫瘍は発生し後腹膜腔にあり。組織的に内被細胞肉腫。術後ナイトロゼンマスタードを3mg以後1~3日の間隔で5mgを3回、計18mgを注射した。大きさは7日後に小児拳大2

ヶ月後にも同程度。血液所見は白血球最初減少、中止後回復。エオジン嗜好球の異常増加あり。骨髓像は上記像と平行に変動す。尿所見は注射後蛋白、ウロビリノーゲン陽性。2ヶ月後蛋白のみ陽性。血清高田氏反応は終了後陽性。2ヶ月后、陰性。即肝障害は早晚恢復するが、腎障害は可成持続するものと思われる。副作用は毎回悪感及軽度の腰痛あり。

以上、ナイトロゼン・マスタードが著効を奏したものと認める。

(9) 急性虫垂炎に於けるブルンベ ルグ氏症候に就て

八 牧 力 雄

Blumberg's Sign in Acute Appendicitis. R. YAMKI

ブ氏症候は体壁腹膜の刺戟状態に原因すると云われている。之を48例の急性虫垂炎の患者で吟味してみた。検査事項は廻盲部圧痛、ブ氏症候、ローゼンシュタイン氏症候、腹筋緊張、右腰三角部圧痛、廻盲部皮膚知覚、体壁腹膜の状態並に其の細菌。

加答児にもブ氏症候93%。廻盲部皮膚知覚低下を示すもの64%。加答児及び蜂窩織炎に於てはブ氏症候が陽性で而も皮膚知覚低下を示すものが多い。ブ氏症候が陽性で体壁腹膜に充血なく而も細菌を立証しないものが圧倒的に多い。以上の事実よりして急性虫垂炎のブ氏症候発生機転に關して次の3つが考えられる。

i) 腹壁の動揺により間接的に罹患虫垂が刺戟される。 ii) 所謂内臓知覚反射。 iii) 体壁腹膜の刺戟。

追加。1 稲本 晃

虫垂の位置とブルンベルグ症候の發現の關係を追及されたら該症候發現の本態を究める一助となるであろうと考えられる。一人の検者がしらべた統計は貴重なものであり、多数の検者の成績を集めた教室の統計よりは信頼すべき結果が得られるものであろう。

追加。2 本庄 一夫

自分の経験では Hyperaesthesia は病期の初期に Hypaesthesia (は後期(晩期)に發現することが多いように思考する。

(10) 膽道再生の問題 本庄 一夫

Considerations on the Regenerations of Biliary Duct. I. HONJO

昭和26年5月例会 (5月26日)

(1) 関節結核と誤られたる股関節

遊離体の一例 今村 伸二

Osteochondromatosis of Hip Joint,
Simulating Tuberculosis. Report of
a Case. S. IMAMURA

(2) Acroparaesthesia の一例

中野 進

Acroparaesthesia. Report of a Case.
S. NAKANO

(3) 胸壁に発生する Endothelioma cylindrosum 巽 亘

Endothelioma Cylindrosum in the
Chest Wall. W. TATSUMI

(4) 唾液腺排泄管より発生せる癌

の一例 佐道 和夫

Cancer Arising from Excretory
Duct of Salivary Gland. Report
of a Case. K. SADO

原発性口腔底癌は比較的に稀で主に舌繫帯又は舌下皺襞から発生する。且その殆んどが扁平上皮癌である。次の例は左舌下腺に当る部分に発生した腺癌で口腔底唾液腺の排泄管より発生したものと考えられる。

症例 . 42才の婦人, 10年前舌の左下側に大豆大の無痛性腫瘍に気付き, 3年前摘出術を受けたが, 間もなく同所に同様の腫瘍を来し以前より速に大きくなつて来た。

口腔内より周囲組織とも一塊として胡桃実大の弾性硬, 境界部に鮮明な腫瘍を摘出, 下顎骨には変化なし。組織学的に所々分泌液の停滞, 排泄管の閉鎖の結果と考えられる嚢腫様拡張あり, 腺細胞は全般に腺腫様増殖あり, 一部に癌性変化あり粘膜下に近づく程著しい。亦 plattenepithelmetaplasie を認めるのは腫瘍が腺細胞と上皮細胞の両者の性質を有するもので唾液腺の排泄管より発生したものと考えられる。

(5) 瀰漫性増殖性脳膜炎の一例

田中 実

Pachymeningitis Productiva Diffu-

sa. Report of a Case.

M. TANAKA

症例. 22才の男子. 5年前頃より頭痛及び左足より始まる全身性痙攣を来し, 3年前入院右後頭下開頭術をうけ軽快退院した。亦同様の症状を来したため昭和26年4月入院。

脳脊髄液正常, 血液ワ氏反応陰性。右頭頂側頭部開頭術で前回と同様の所見あり。組織学的に Pachymeningitis fibrosa chronica であつた。

考察, 硬脳膜炎の増殖型は大体梅毒による事が多いと云われている。この症例も第一回の所見より明かに梅毒性である。増殖性硬脳膜炎は血管又は軟脳膜型の神経梅毒より遙かに稀である。この症例は恐らく頭蓋内の硬脳膜全体にわたる広範囲の増殖性硬脳膜炎であると思われる。かゝる症例は今までに2例の報告をみるのみである。

(6) 直腸癌手術とストレプトマイ

シン 日笠頼則・袴田文治

Spreptomycin for the Operations
of Cancer of the Rectum.

Y. HIKASA B. HAKAMADA

(7) 電気泳動法による骨脱灰法

横田 彰

Decalcification of Bone by Means
of Iontophoresis. A. YOKOTA

(8) 骨の急速組織標本作製法

大谷 寿

New Rapid Method of Making
Histological Sections of Osseous
Tissue Special Lectures.

Z. OTANI

骨組織を36°Cの孵卵器内で1~2日間フォルマリン固定, 次にリッツマンの原法に従い塩酸(8%)と蟻酸(10%)の混合液に6V電流を通じ乍ら脱灰, 脱灰組織片を5%硫酸曹達液に5~6時間侵し, 其の後12~24時間に亘り流水中にて充分に水洗し, Carbowax に包埋, 室温中にて徐々に固める。小さい組織片ならば10~15μ位, 大きなものでも20μ位の厚さに

は切ることが出来る。此の切片は脆いので卵白グリセリンを塗った載物硝子に貼りつけて染色した方が安全である。標本は数日と云う短期間に作製を完了し得るのみならず、標本の染め上りが非常によろしい。又

脂肪溶性溶媒を全然使用しないので脂肪球初め種々の細胞体内封入物の消失を防止することが出来る。従つて此の様な点からも骨の組織学的研究に一進歩を齎し得るものと信ずる。

特 別 講 演

(1) 悪性腫瘍と淋巴液 (50分)

解剖学教室 助教授

岡 本 道 雄

The Lymph and the Malignant Neoplasm.

M. OKAMOTO

(Faculty of Anatomy)

(2) 塗抹標本による悪性腫瘍の診断

病理学教室

武 田 進・海野源太郎

Diagnosis of Malignant Neoplasms by the Smear Method.

S. TAKEDA, G. UNNO

昭和 26 年 6 月 例会 (6月20日)

(1) 停留睪丸の一例 山 添 善 朗

Cryptorchidism. Report of One Case.

G. YAMAZOE

(1) 停留睪丸に伴う外鼠蹊ヘルニアの一例。

(2) 輸精管はヘルニア嚢壁下に存在していた。この事は睪丸が一度は鼠蹊管内を下降せる事を示すものか、輸精管のみがヘルニアに索引されて鼠蹊管を下降せるものかは不明であるが、通常の停留睪丸に伴うヘルニアに見られる如きヘルニア嚢先進部の睪丸の存在が本例では見られず、内鼠蹊輪附近に睪丸は停留しヘルニア嚢壁下に輸精管のみを見た。

(3) しかも停留睪丸は良性畸形腫であつた。

(3) ミクリッツ氏症候群の一例

井 上 尚 史

Mikulicz' s Syndrome. Report of a Case.

N. INOUE

症例。24才の男子。5年前より右側頸下部に、6ヶ月前左側にも示指頭大の無痛性腫脹を生じ漸次大きさを増して来た。時々眼瞼重圧感有り、流涎、口腔内乾燥感はない。局所々見は左右頸下腺が略鶏卵大に腫脹す。涙腺、耳下腺、舌下腺の腫脹を認めず。血液は赤血球520万、白血球8200、エオジノフィリー37%、便、虫卵陰性。血清ワ氏反応陰性。経過はレ線照射するも効果少し。両側頸下腺を摘出。術後2週間目、同部に腫脹を認めず。組織学的に慢性炎症の像を示し間質が増殖し、円形細胞浸潤、エオジン嗜好性細胞浸潤が著明。

考察。本症例は左右唾液腺の対称性無痛性腫脹、慢性的経過、血液像、組織学的所見からミクリッツ氏症候群の一例と思う。本症は稀な疾患で種々の病型あり、原因に關しては未だ決定的な説はない。本症例も上記の所見よりは原因不明と云わざるを得ない。

(4) 痔核の注射療法による高度肛

門狭窄の一例 島 田 三 千 秋

Ein Fall von hochgradiger Analstenose infolge Injektionstherapie für die Hamorrhoiden.

瘍の一例 巽 亘

Gastric Ulcer Associated with Relaxatio Diaphragmatica. Report of One Case.

Y. TATSUMI

症例は39才の男子の患者で、入院時の主訴、現病歴、及び現症、並びに諸種検査、特にレ線透視と撮影により胃の特異な変型、二重弧線を有する平坦な胸腹腔鏡線状陰影等を認め Relaxatio diaphragmatica の存在を認めると同時に胃潰瘍と診断し、手術を行い両者の合併を確認し、胃切除、及び Billroth II. 胃空腸吻合術を施行し、諸症状の全く消失した1例を経験した。同症例に認められた総腸間膜症、異常肝小葉、既往歴に關係なき心臓交位の存在は Cruveilhier 等の Relaxatio diaph. 後天性疾患説に対し、Thoma, Doering 等の先天性疾患説を思ふものであり、Relaxatio diaph. と胃潰瘍の合併は Kienböck, Bouchut

M. SHIMADA

症例. 37才, 男子. 約4ヶ月前痔核に腐蝕剤の注射をうけた. 局所に数日間激痛あり. 約2週間後壊死組織が脱落した. 約1ヶ月後より肛門が狭少となり現在腹圧を以てしても排便は不充分. 局所々見では肛門の位置に瘻痕のみ存在. 12時の部に豌豆大の肉芽組織ありその下に湯針大の開口あり. レ線により5糞奥まで狭少なる管状. それより急激に直腸は膨大す. 手術は Whitehead 氏法に準じて直腸管を5糞上方まで剝離切断. 内外肛門括約筋は完全に荒廃. 直腸壁は全層に互つて約1糞肥厚, 浮腫状. 狭窄部に痔核帯を包含す. 術後. 大便失禁を貽す.

これは注射療法により肛門の高度瘻痕狭窄を起した悲惨な例である.

(5) 強直性脊椎関節症の成因に關

する知見補遺 手 島 幸 三

Supplementary Study on the Etiology of Spondyloarthritis Ankylopoetica.

S. TEJIMA

18年の慢性経過をとり, その間股関節結核の診断の下にギプス固定を受けたり, 左股関節成形術を受けた典型的な強直性脊椎関節症の患者に肝・脾機能障害を発見し, 血清アルカリフォスファターゼ 2.15 mg/dl, 血清カルシウム 11.8 mg/dl, 赤沈 94 mm, 赤血球減少性貧血を認めた. 肝機能障害と血清アルカリフォスファターゼの関連性を疑つたが直接の關係は考えられず, 長期に亘つて体内で起きた抗原抗体反応の結果臓器障害及び貧血が起きたものと解釈せざるを得なかつた. 即ち肝臓其他臓器障害が一次的に各関節乃至靱帯に働きかけ石灰沈着乃至化骨を來すのではなく, 各関節・靱帯の間質組織にかゝる変化を來し易い様な異常状態が出来あがつて後に二次的に沈着又は化骨するので, その準備状態の本態はロイマ性炎症と考えられる.

(6) 胃症状を呈せる石灰腎の一例

世 良 英 則

Calcified Kidney with Stomach Symptoms. Report of a Case.

H. SERA

(7) 頭蓋内混合腫瘍について

田 中 実

Intracranial Mixed Tumors.

M. TANAKA

京大外科第一講座における頭蓋内混合腫瘍の7例の

概略を述べる.

1. 35才, 男, 右 V VI VII VIII IX 脳神経麻痺と右小脳失調がある. 右小脳腫瘍を鋭匙で掻き出した. 診断. 右小脳橋角部の Cholesteatom.

2. 24才, 男, 術後死亡. 診断. 松果体部の Cholesteatom. 頭蓋内 Cholesteatom の好発部位は小脳前下部及び鞍上部である.

3. 23才, 女, 癲癇発作以外異状所見なし. 上側頭回転に雀卵大の腫瘍あり. 診断. 右側頭部の Dermoidcyst. この例で脳室レ線像で囊腫壁の石灰化の像をみとめた.

4. 11才, 男, Pubertas praecox がある. 術後死亡. 診断. 松果体畸形腫.

5. 12才, 男, 昏睡状態で入院, 術後死亡. 診断. 松果体畸形腫.

6. 4ヶ月, 女, 頭蓋外より内面, 即硬脳膜外の腫瘤あり. 診断. 頭頂部畸形腫.

7. 6ヶ月, 女, 右側頭部に瀰漫性の膨隆と骨欠損がある. 術後死亡, 右中頭蓋窩に林檎大の硬脳膜内腫瘍がある. 診断. 脳底畸形腫.

以上4例の畸形腫の内2例は松果体畸形腫で松果体は好発部位である. 発生学的にこゝは間脳と中脳の移行部である.

(8) 巨大なる頭部肉腫の一例

佐 道 和 夫

Huge Head Sarcoma. Report of a Case.

K. SADŌ

症例. 54才の男. 主訴, 前頭部の無痛性腫瘤. 10才の頃前頭部を打撲し小指頭大の無痛性腫瘤を生じていた. 24才の頃から母家が果樹園を営んでいたため樹木の枝で前頭部を打撲する事多くそのため漸次大きくなり, 30才の時摘出術をうけ以来年に1~2回摘出をうけていた. 局所々見は前頭部に25×23糞の腫瘤あり鮮紅色の肉芽様組織で被われ極めて出血し易い. 所属淋巴腺の転移なし. 手術は頭蓋骨, 頭部軟部組織と共に腫瘍を摘出. 腫瘍は骨膜に浸潤し頭蓋骨に小破像を認めた. 組織学的には定型的な纖維肉腫である. 経過は良好で1ヶ月半後に於て再発の様子なし. 考察. 度重なる機械的刺戟と度々行なわれた手術侵襲も頭部軟部組織より発生した肉腫の原因から除外出来ないものと考えられる. 亦腫瘍と頭蓋骨を共に摘出の方が手術の徹底性からも手術操作上からも合理的である.

(9) 虫垂粘液漏出の二例

可 知 守 孝

Leakage of Mucus from Appendix. Report of 2 Cases.

M. KACHI

虫垂間膜内の真性憩室竝に仮性憩室形成から更に組織内粘液漏出をもたらした二例を経験し、その一例は十数箇の寒天様膨隆物が虫垂周辺部に相重疊して奇怪な葡萄状鬼胎様の外観を呈していたが、従来の発生機転といささか異つた病理組織学的所見を認めた。

(10) 悪性胎生混合腫瘍の一例

加 藤 時 雄

A Case of Malignant Embryonal Mixed-tumor. T. KATO

症例。生後7ヶ月の男子。約一ヶ月前より血尿を来す。右側上腹部に双手性に触知する手拳大の無痛性腫瘤あり。摘出腎腫瘍は $10 \times 8 \times 6$ 釐，220 瓦，組織学的に Wilms の言う悪性胎生混合腫瘍である。

考案。此の腫瘍は組織学的に、肉腫様の部分と腺腫様の部分から成り、その腺組織が単純癌の如き像を呈する部があり、稀に軟骨や角化重疊体、未熟な筋繊維、糸球体、細尿管、胚芽性腎組織の見られた例がある。而も此等の移行型がある。其の成立機点は上記各組織の中胚葉の原節基から発生すると説く Wilms (1890) の説が一般に認められている。悪性腎腫瘍としては副腎腫が最も多く、悪性胎生混合腫瘍は之に次ぐ。小児期では副腎腫は稀有で悪性胎生腫瘍は第一位である。好発年齢は1～5才が70～80%。又此の腫瘍は可成り両側性に来る。性別は大差ない。腫瘍の成長は速で且つ極めて大となる。通常無痛性で無血尿である。転移は主に血行性に行われ、肺、肝、腸間膜、後腹膜の順で此の他あらゆる臓器に広がるので永久治癒は極めて悪い。

(11) 骨関節結核病巣廓清術後に

ける肺所見 森 益 太

X-ray Findings of the Lung before and after the Focal Debridement of Bone-joint Tuberculosis.

M. MORI

過去2年間に手術的療法の対象となつた骨関節結核症例50例の胸部レ線像を観察し、都築博士の分類によりその内の41例(82%)に何等かの結核性所見をみると、而もその中の13例(26%)が第Ⅳ型(活動性肺結核)に属する事を知つた。之は骨関節結核症が全身性疾患たる結核症の一部面を形成する事を示すものである。又この胸部所見を術前・術後に於て比較して見た所、その中の39例については6ヶ月の観察期間の

後、増悪例は0で過半数が改善の傾向を示している事を知つた。又活動性肺結核の12例に於ては不変2例、好転5例、著しい好転5例であつた。これらの成績からして化学療法を併用して行ひ骨関節結核の病巣廓清術に対しては肺結核の併存も必ずしも禁忌ではなく、活動性肺病巣を有する症例に対しても場合によつては手術の適応を拡大し得る事を知り得た。

(12) 出血性素因と外科、殊に血友

病と手術に就て 半 田 肇

Haemorrhagic Diathesis, especially Haemophilia in Surgery.

H. HANDA

出血性素因患者の中で、単に血管壁の変化に基くものと、血漿の変化に基く血友病患者に就て経験を述べる。前者の中の血管障害性紫斑病は大体手術に差支える場合はない。季節の変わり目に、年に1～2回特発性に右膝関節出血を来す女性2例を経験しているが、血液所見正常、Rumpel-Leede 氏現象強陽性であつたのでロイマチス性紫斑病と考えている。血友病の症例1は肝彎曲部に結腸腸間膜内に限局性出血を来し同時に他の体の部にも限局性紫斑を認めた例であり、症例2は頭部血腫の體瘍形成せるものに小切開後止血せず、左肘部切開にて輸血したら止血したが今度は同部が止血せずビオデラチンの撒布、圧迫繃帯により漸く止血した例と共に1～2才の男子で血小板数正常、Rumpel-Leede 氏現象陰性、血液凝固時間の著しい延長が認められた。血友病患者は原則として保存的療法をせよと云われているが上記2例の結果から考えると圧迫すれば必ず止ると思われる程度の毛細管出血で手術に差支える程の出血ではなく、ビオデラチンの作用から考えて最近局所止血剤として使用されているフィリブソフォーム、デラチンフォーム、等を輸血又は抗血友病血漿等と併用すれば恐らく普通の場合と同様に手術が可能であると考えらる。

(13) 腓尾側切除の癲癇患者の血液像におよぼす影響

徳 岡 俊 次

Influences of the Caudal Hemipancrasectomy on the Haemogram in Epileptic Patients..

S. TOKUOKA

編輯後記

○謹賀新年

終戦後八年、今年こそは今年こそはと、何か期待をもつて年頭を迎えては満される事少く送つた年月である。まだまだ安定しない世界状況の中で、兎も角復刊記念号を発行し、引続き本誌を期日通りお贈りする事が出来てまことに喜びにたえない。

○前号には色々不備な点もあり、特に英文には少からざる誤植を出した事は全く汗顔の至りである。併しこれからは、日本外科宝函が、論文を早く、正しく発表する雑誌であると云う事をモットーとして、編輯者一同鋭意努力する覚悟である。何卒一層の御援助をお願いする次第である。

○掲載料が改正になつたが、これは、原稿を早く掲

載すると云う本誌の特徴を生かす為、に、当分の間とる止むを得ざる手段であり、購読会員の数が増加すれば次第に安くなる予定である。何卒本誌発展の為に誘い合つて購読会員になつて戴きたい。

○表紙の体裁も藤田栄隆君の努力により前号よりよくする事が出来たと思う。更に色々御気付きの点があればどしどし編輯室へ御知らせを乞う。

○診療と研究の間にやる仕事はどうしても素人くさくなり易い。これを防ぐのは会員全体の眼である。街ではストライキ、大売出しと混雑している年末などに、寒々とした部屋で小火鉢をかゝえて校正や編輯をしている時に何時も想うのは、本誌往年の活躍をのりこえる日は何時であるかと云う事である。

(増田 強三、藤田 栄隆記)

投稿規定

○本誌は毎年1月、3月、5月、7月、9月及び11月の1日に発行する。

○本誌予約購読者の原稿を掲載する。

○原稿の長さはおよそ下記の限度とし、和文原稿には欧文表題、欧文抄録。欧文原稿には和文表題及び和文抄録を添附されたい。

原著論文、綜説、臨床400字詰40枚以内(図表共)

症例報告、研究速報、400字詰15枚以内(図表共)

○原稿の当編輯室へ到着した日附を受付日とする。

○原稿の用語中、固有名詞はすべて固有の文字を、又数字はすべてローマ数字を使用し、日本語化した外国語は片かなでかく事。この際「」は不要。

○数量の単位は下記の例による

例、m, cm, mm, cc, Kg, g, mg, °C, μ, %, pH, 等

○原稿は横書とし新かなづかいを用いる事。

○欧文及び欧文抄録はタイプライターで記入されたい

○挿画、曲線等は必ず白紙又は青線方眼紙に墨で清書し挿入位置を原稿に記入する事。

○引用文献は篇末に集め、次の例に準じて記載する。

(氏名)

(表題)

Beatson, G. T. On the Treatment of Inoperable (雑誌名)(巻)

Case of Carcinoma. of the Mamma. Lancet, 2, (頁)(年代)

104, 1896

三宅 儀 副腎皮質ホルモンの測定と臨床 最新医学 6, 765, 昭26. 9.

○掲載料は当分の間実費とし概算前払いとする(1頁1,000円但原著以外のものに就ては3頁までは無料とし3頁を超えた分に対しては原著と同じ取扱いとす。この費用の中には図表・写真版等の費用は含まない)

○特に早く掲載を希望し掲載号を指定される方の掲載料は右の一割増とする。

○執筆者に於て別刷希望の方は、寄稿と同時に特に附言せられたい。10部までは無代進呈し、それ以上は実費を申し受ける。

○原稿は書送郵便で下記に送られたい。

京都市左京区聖護院川原町五三

京都大学医学部附属病院外科学教室内

日本外科宝函編輯室宛

購読規定 年6冊発行 予約購読料 ¥.600 (送料不要)

昭和27年12月25日印刷

昭和28年1月1日発行

編輯兼発行者

京都市左京区聖護院中町四

中 田 寛 治

印刷者

京都市下京区油小路松原上ル

松 崎 秀 雄

印刷所

京都市下京区油小路松原上ル

松崎印刷株式会社

京都大学医学部外科学教室

発行所

日本外科寶函編輯室

代表者

荒 木 千 里

(猪子・伊藤両教授記念会)

(振替口座京都3691番)